

現状

北海道エゾシカ管理計画

法令上の位置付け { 第二種特定鳥獣管理計画（鳥獣保護管理法）
基本計画（北海道エゾシカ対策推進条例） }

目的 ~エゾシカと人間との軋轢の軽減と共生を図る~

地域別目標（個体数指数を指標とする）

地域	基準年	初期値	現在値（2018）	当面の目標	現在の動向
東部地域	1993	1 0 0	1 2 0	5 0 以下	減少傾向
西部地域	2000	1 0 0	2 6 4	1 5 0 以下	横ばい
南部地域	2011	1 0 0	2 7 9	減少に転じさせる	増加傾向

フィードバック管理

○目標水準と大発生水準の間で個体数を管理
○大発生水準は1980年代半ばの推定生息数に相当（農林業被害等が深刻な社会問題となった頃）
○許容下限水準を下回ると絶滅の危険度が高まる（1000頭を下回ると2年連続の豪雪で絶滅リスク大）

エゾシカ捕獲推進プラン

年間増加数（推定生息数×増加率21%）を上回る捕獲で個体数削減
メスシカの優先捕獲で効率的な個体数削減が可能

捕獲推進

年間捕獲数：10~12万頭
メス比率：55~65%

許可捕獲

実施主体：国・北海道、市町村（被害防止総合計画）、その他
【捕獲従事者】 狩猟免許所持者 【狩猟者】 狩猟税の納付

捕獲個体の処理

環境省交付金、エゾシカに由来する大発生被害、50頭以上の搬入を行う上位10%の人材で搬入頭数の50%をまかなっている

有効活用

7.1%
食肉 1.7% ベットフード 6%
自家消費 4.2% その他 6%

施設数：101施設
年間処理頭数：26,297頭（メス比率47%）
処理頭数500頭以上の施設が74%の頭数を処理

廃棄

2.9%
焼却・埋却
廃棄率（許可捕獲：4.2%、狩猟：8%）

安心・安全

食品衛生法、HACCPによる衛生管理、衛生処理マニュアル、エゾシカ肉処理施設認証（14施設）

課題

データの収集・蓄積

- 資源量（個体数）推定の方法
- 施設運営に必要な資源量
- エゾシカの資源価値
- エゾシカの経済波及効果
- 管理学的課題と経済学的課題の整理

被害管理・資源管理・個体数管理の整合

被害管理：農業被害、林業被害、生態系被害、交通事故、列車支障
被害低減：被害防止対策
資源管理：持続的利用、個体数維持、利活用率向上
個体数管理：ジビエ、ペットフード、その他利活用、新産業創出、インバウンド

流通・消費の課題

被害管理の課題

- 被害額は高水準で推移（39億円）
- 被害が許容される水準の決定（被害額・個体数・生息密度などの指標）
- 狩猟者に依存した捕獲体制
- 資源利用との相反

資源管理の課題

- 年間処理頭数（利用量）の設定方法
- 個体数減少局面における原材料の確保
- 施設の規模拡張や増減への対応
- きめ細かい地域主体管理の推進が必要
- 被害管理との相反

施設の意識

- エゾシカの適正管理（現状からは減らしたい）
- 被害低減と持続的利用
- 持続的な経営がしたい（減らしたくない）
- エゾシカは資源

狩猟者の意識

- エゾシカは害獣（減らしたい）
- 捕獲は狩猟者に依存
- 持続的な捕獲がしたい（減らしたくない）
- 様々な価値観

被害者の意識

- エゾシカは害獣（減らしたい）
- 捕獲は狩猟者に依存

行政の意識

- エゾシカの適正管理（現状からは減らしたい）
- 被害低減と持続的利用

施設運営の課題

- 仕入れ：個体のばらつき、時期の偏り
- 製造：トレーサビリティ管理、着弾箇所
- 施設ごとに衛生基準や品質にばらつき
- 販売：需要の高い部位や時期に偏り

被害者と受益者（狩猟者・施設）で意識が別離

今後の方向性

捕獲推進 有効活用

原材料の安定確保と需給調整
捕獲・運搬技術の向上
飼育・養鹿の技術開発
一次処理の手法開発

経営安定化

利益の確保
処理頭数の増加
高価格化（G1登録など）
認証施設の差別化

関係者間の調整

※図は現在の関係を表したもの
道：捕獲目標数設定
国：農水省・環境省
市町村：被害防止計画策定
農林業事業者：駆除頭数の確保
狩猟者：狩猟機会確保
消費者：安全・安心
流通・小売：トレーサビリティ

資源量の確保

※資源量=個体数
施設の必要頭数から逆算

- 施設運営に必要な処理頭数を算定
【例】A：3万頭
利活用率25%であれば12万頭の捕獲が必要
- Bをもとに最低必要資源量（個体数）を算定
【例】B：12万頭
捕獲維持には57万2千頭の個体数が必要
個体数×年間増加率21% ≧ B
- Cの個体数が被害の許容水準を超える場合には、利活用率の向上により必要捕獲数を下げる必要がある

捕獲目標の設定

北海道エゾシカ管理計画（第6期） 2022年度~

- 現在の管理目標に資源利用の観点を加えた新たな目標を設定（利活用と被害対策のバランスを考慮）
- 各水準の考え方・設定方法を検討
- 各水準における捕獲優先度（オスメス）の検討
- 有効活用による経済波及効果を評価する
- エゾシカと人間の共生に関する考え方を改めて整理
- 地域区分の検討

新たな管理水準

持続的利用に必要な資源量を個体数管理の要素に追加

個体数維持が可能な捕獲数と施設運営に必要な捕獲数の均衡を図る
個体数維持：個体数×年間増加率
施設維持：捕獲数×利活用率